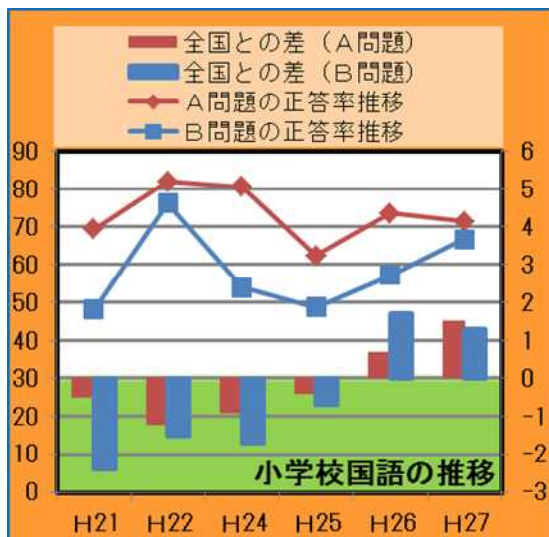


平成27年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント



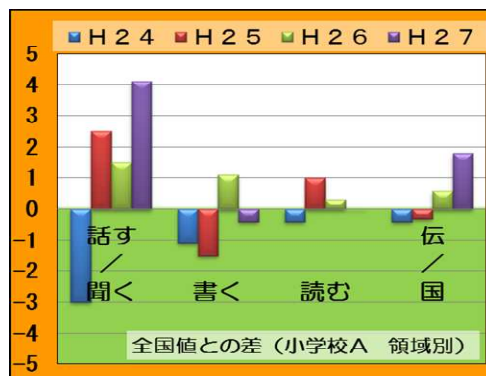
小学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	57.1	53.0	+4.1	
書くこと	85.6	86.0	-0.4	
読むこと	55.2	55.2	+0.0	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.0	77.2	+1.8	
全体	71.5	70.0	+1.5	

小学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	出題なし		…	
書くこと	62.7	61.1	+1.6	
読むこと	69.6	68.1	+1.5	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	出題なし		…	
全体	66.7	65.4	+1.3	

小学校：国語A

全問題数：14問（選択式7問・短答式7問・記述式0問）

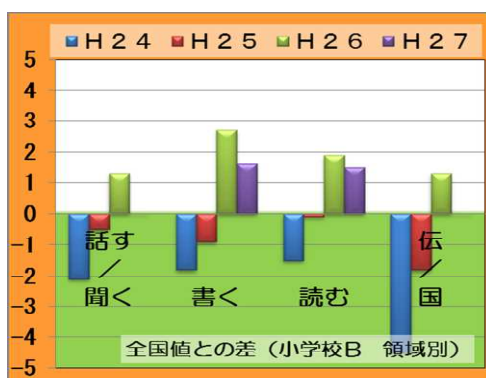
- ・県平均正答率71.5%（選択式68.3%・短答式74.6%）。平成26年度に比べ、正答率は下降したものの、全国値を1.5ポイント上回った。
- ・全国平均正答率との比較で見ると「書くこと」「読むこと」領域は、それぞれ、-0.4ポイント、±0.0ポイントとなり、優位性が見られなくなった。



小学校：国語B

全問題数：9問（選択式3問・短答式2問・記述式4問）

- ・平均正答率66.7%で、出題された全ての領域で全国平均正答率を上回った。また、9問中7問において、全国平均正答率を上回っている。
- ・正答率は上昇しているものの、全国平均正答率に対する優位性は前年度から減少している。
- ・全問題において、無回答率が全国平均より低い。



小学校：その他

- ・国語A・国語Bとも正答率が全国平均以上の児童は51.9%（前年度46.8%）、国語A・国語Bとも平均未満の児童は25.0%（前年度27.0%）であった（中間層以上が増加）。
- ・児童質問紙「国語の勉強は好きですか」に肯定的な回答をした児童の割合が61.7%（H19年度55.6%、H26年度56.9%）と増加傾向である。

2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

小学校：国語A

(1) 話すこと・聞くこと

①話の内容に対する聞き方を工夫する。〈指導事項・話すこと・聞くこと 5・6年エ〉

A3 (正答率 57.1%・全国 53.0%)

- 青木さんの心の中の声についてAは提案の理由に着目する聞き方、Bは提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせる聞き方、Cは提案の効果や妥当性を判断する聞き方について述べている。
- 解答類型から、Bについて、不正解である児童が4分の1以上いることが分かる。選択肢2の「確かめながら聞いている」だけで判断したか、Bの心の中の声「あまりできていない」と「反対の立場に立ち」との関連で考えてしまったと考えられる。
- 相手の話を聞く際には、相手の話の目的や意図を捉えながら

3

次は、代表委員会に出された【美化委員会からの提案の一部】と、それを聞いている六年生代表の【青木さんの心の中の声】です。A・B・Cは、どのような聞き方をしていますか。それらについて説明しているものを、あとの1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

【美化委員会からの提案の一部】

最近、校内のよこれが気になります。みなさんは、そうじに一生けん命取り組んでいますか。中には、おしゃべりはかりしている人や取りかかりがおそい人もいます。

そこで美化委員会から、来月の全校美化週間において取り組むことを、次のように提案します。それは、「(さ)・(し)・(ず)・(せ)」を合い言葉に取り組むことです。

(さ)……さっと取りかかり
(し)……しずかに
(ず)……すみずみまで
(せ)……せいっぱい

(そ)……そうじをしよう
これらを合い言葉に、みんなで力を合わせ、きれいな学校にしていきたいましよう。
(提案が続く)。

【青木さんの心の中の声】

A そうじに対する取り組みの問題点をBをもとに、提案しているんだな。

B 六年生は、「さっと取りかかり」と「すみずみまで」については、あまりできていないような気がするわ。

C 低学年にも分かりやすいな。これなら、そうじのときに合い言葉として声をかけ合うことになるだろうから、きつと効果が上がるわ。

1 提案の内容と自分たちの様子とを関係付けながら聞いている。

2 自分が予想したとおりかどうかを確かめながら聞いている。

3 どのようなことをもとにした提案なのかを考えながら聞いている。

4 提案に対して反対の立場に立ち、疑問をもちながら聞いている。

5 目標の達成につながる提案であるかを評価しながら聞いている。

ら内容を十分に聞き取ることができるように指導すること、また相手の目的や意図を捉えつつ、自分の考えをまとめることができるように指導することが重要である。

- 本問に関連する問題が、平成24～26年で出題されている。授業アイデア例を参考に、関連する言語活動を行うことが重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」30～35ページ

A3の解答類型				
	A	B	C	
1	○	○	○	57.1%
2	○	○	×	2.3%
3	○	×	○	10.2%
4	×	○	○	3.2%
5	○	×	×	6.8%
6	×	○	×	2.5%
7	×	×	○	9.9%

(2) 読むこと

①新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える〈指導事項・読むこと 5・6年ウ〉

A5一 (正答率 60.2%・全国 59.5%) **A5二** (正答率 17.7%・全国 19.8%)

- 新聞のコラムを読み、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉える力に関する設問。
- 設問一は、筆者の読書体験として、「2」に子供の頃に読んだ感想、また「4」のまとめりに、再読した折の新発見が書かれていることを捉える必要がある。
- 設問二については「3」に「 」を使った引用箇所があることを捉える必要がある。
- 解答類型から引用箇所を、「子ども読書」「世界本の日」「ゼロ弾き」と答えた児童が27.7%いることが分かる。また「 」が使用されている部分以外を抜き出している児童が45.2%であった。以上のことから、
 - 引用をするときには「 」を使用するということは、理解しているものの、「引用」の必要性や効果を考えて上で言葉を判断することができなかった、
 - 「引用」という言葉自体がよく分かっていない、という2点が考えられる。

・引用については、生きて働く国語の能力として、目的に応じて、適切に引用することができるように、言語活動を位置付け、課題解決の過程において指導することが必要である。

・「引用」という言葉は、学習用語として教科書にも出てくる言葉である。国語科授業において、理解語彙から使用語彙に高めていく工夫が求められる。例えば、既習の用語については、教室に掲示することはもちろんであるが、その用語を使用して説明させることなど、日々の学習の中で使用させることが重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」
38～40 ページ

5

次は、読書のことについて書かれた新聞の「コラム」(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この「コラム」は、全体の内容が1から5までのままとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの一と二の問いに答えましょう。

【コラム】

記事の中の▼は、ままとまりを表す印です。

1▼四月二十三日

ものは、その時その時によって読みの味わいがある。子供時代は「子ども読書の日」、世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しさを味わう日である。2▼子供のころ、宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」に夢中になった。栗団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がおどった。3▼ある作家の言葉に、「読書というもよいものだ。」

▼1「描写」……書き表すこと
▼2「愛」……子供の心

一 筆者は、「子ども読書の日」について、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているままとまりを、「コラム」の中の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。)や読点(、)は字数にふくみません。

②登場人物の相互関係を捉える<指導事項・読むこと5・6年エ>

A6 (正答率 68.4%・全国 67.5%)

6

次は、「オオサンショウウオの夏」という題名の「物語の一部」です。これをよく読んであとの(問い)に答えましょう。

■物語のこれまでのあらすじ
主人公のぼくは、夏休みに広島のおじいちゃんの家に行くために、お父さんとふたりで車に乗って出かけました。

【物語の一部】

おじいちゃん
・魚つりの名人
・広島のおくにおくに住んでた

ア ← → ア

お父さん
・魚つりが好き

ウ ← → イ

ぼく
・小学四年生

(問い) 次は、「物語の一部」をもとにした「人物関係図」です。図の中のア・イ・ウの中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。ただし、同じ番号は一度しか使いません。

【人物関係図】 ア・イ・ウは、矢印が向かう相手への思いや考えを表しています。

※1「アユ」：川魚の一種。
※2「アユ」：アユのつり方一つ。
(阿部夏丸「オオサンショウウオの夏」による)

- 1 魚つりに関して教えてやりたい。
- 2 いっしょに魚つりをしたい。
- 3 魚つりに関して教えてもらいたい。
- 4 学校でアユの友つりをしてみたい。
- 5 魚つりに興味がないのでえんりょしたい。

- ・「4年間のまとめ」において、「物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えること」に課題があると指摘していること、平成26年度A5 (正答率 65.5%) において、課題が見られたことを踏まえての出題である。
- ・「ぼく」が視点人物であることを理解し、会話文に着目して前後の文脈から登場人物の相互関係を捉える力を見る問である。
- ・解答類型から、「イ」について、理解が不十分な児童が18%を超えていることが分かる。「イ」は「お父さん」の「ぼく」に対する心情

A6の解答類型				
	ア	イ	ウ	
1	○	○	○	68.4%
2	○	○	×	5.6%
3	○	×	○	5.2%
4	×	○	○	1.3%
5	○	×	×	2.6%
6	×	○	×	1.1%
7	×	×	○	10.3%

である。「いっしょにつりをやってみないか?」「名人がふたりで教えてやろうってんだ」などの叙述から判断する。

- ・物語を読む際、情景や場面の变化、人物の性格や行動、心情の変化などを理解していくことが必要で、例えば、高学年では、人物の相互関係などを手がかりに内面にある心情を捉えるなどの指導することが必要である。具体的には、人物の相互関係を図や矢印などを用いて人物関係図に表すこと、本を紹介する際に人物関係図を活用すること、などが考えられる。
- ・具体的な言語活動については、平成22年度及び平成26年度の授業アイデア例を参考にすること。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」41～43ページ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

①学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。〈指導事項・伝国5.6年(1)ウ(ア)〉

A□二 (正答率58.3%・全国58.4%)

- ・正答は「浴」である。音訓ともに第4学年で学習する漢字である。「浴びる」は児童の使用語彙であると考えられるが、正答率が低い。主な誤答例は同じへんや似たつくりをもつ「溶」「治」、同じ発音をする「挙」である。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字について、意図的・日常的に正しく読んだり書いたりすること、それらを文や文章の中で適切に使うことができるように指導することが重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」25～27ページ

②文の中における主語を捉える。〈指導事項・伝国3.4年(1)イ(キ)〉

A□一 (正答率59.7パーセント・全国53.1%)

- ・平成25年度【小学校】国語A3一(正答率36.9%)において「文が句点によって区切られること」の理解に課題が見られたことを踏まえての出題。
- ・「1」の文は、「何が(は)～どうした」という構成である。「2」の文は、「何は(が)～何だ」という構成である。
- ・解答類型から、「2」の「何は～何だ」についての主語の誤りが22.3%を超えており、物の様子や状態等を示す述語に対する主語についての理解に問題があると言える。人を表す語句を主語と誤って捉えたものと考えられる。
- ・主語と述語は、明確な文を書く上で、基礎となるものである。主語と述語の照応関係について、文の理解・表現に際し、きちんと意識できるように指導することが必要である。
- ・また、主語と述語の理解にあたっては、例文の中から主語と述語とを区別して取り出す活動等が考えられる。
主語・・・「何は(が)」「誰は(が)」などという言葉
述語・・・動き(「どうした」)、様子(「どんなだ」)状態(「何だ」)を表す言葉
という指導をすることも有効である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」28～31ページ

二 1から3までの文の——部のひらがなを、漢字で書いていねいに書きましよう。
1 シャワーをあびる。

— 1と2の文の主語として適切なものを、アからエまでの中からそれぞれ一つ選んで、その記号を書きましよう。
1 ア 降っていた雨が、急にやんだ。
2 ア ぼくの妹の誕生日は、五月二日だ。
イ ウ エ

必要な内容を素早く探す力（読むこと）、それを適切に書く力が必要となる。

- 取材した事柄を記事として書く際、事実と感想を意見などを区別すること、目的や意図に応じ、内容に軽重をつけることが大切である。具体的な指導として、伝えたいことの内容を明確にし、自分で調べた内容や関係者に取材した事柄の中から取捨選択すること、事実だけではなく、取材した相手から受ける印象や自分が感じたことなどをメモに取っておくこと等がある。
- 実際の指導にあたっては、「4年間のまとめ【小学校編】」（P.6～7、P.64～65、P.100）、「平成21年度【小学校】授業アイデア例」P.2、「平成25年度【小学校】授業アイデア例」P.11～P.12等を参考にすることも重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」53～55ページ

(2) 書くこと／読むこと

①目的に応じ、中心となる語や文を捉える<指導事項・読むこと3・4年イ>

B2ーア (正答率 74.9%・全国 75.5%)

2

森山さんは、物事を決めることに関心をもち、次の「だれが選ぶ どれを選ぶ」という「文章」を読みました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章】

だれが選ぶ どれを選ぶ

学校生活においては、学級の係や児童会の委員を決めるなど、みんなで物事を決めることがあります。物事を決めるということは、どういうことなのでしょう。何かを決めるときには、「選択者」と「選択肢」があります。「選択者」とは、選ぶ人のことをいいます。また、選ばれるものや人のことを、「選択肢」といいます。

それでは、「選択者」と「選択肢」の関係を、具体的な場面を考えてみましょう。学校では、学校図書館にあるたくさん本のなかから、目的に応じて本を選ぶことがあります。この場合、「選択者」は、学校のみならず、「選択肢」は学校図書館にあるたくさん本のことで、

(図1)は、「選択者」が一人、「選択肢」が複数の場合です。例えば、休み時間に一人で学校図書館に行って、一冊の本を借りることにしました。この場合、「選択者」のあなただけ、「選択肢」のたくさんの中から、好きな本を選ぶことができます。このような場面では、「選択者」はあなただけ一人なので、どの本を選ぶかどう選ぶかはあなただけの判断で決めることができます。

(図2)は、「選択者」が複数で、「選択肢」が一つの場合です。例えば、学校図書館のたくさん本の中から人気のある一冊の本に何人かの人が集まるような場面です。このような場面では、だれがその本を借りることにするか、折り合いをつけて決めていくことが大切です。たがいにゆずり合って解決することを「折り合い」といいます。

最後に、図3について考えてみましょう。

(図3)は、「選択者」が複数で、「選択肢」も複数の場合です。例えば、学級全員で学校図書館に行き、感想文を書く本をそれぞれ一冊選ぶような場面です。このような場面では、「選択者」の一人一人が一冊ずつ本を借りることができますが、選びたい本の希望が重なることもあります。

(図3)は、(図1)と(図2)とはちがう場面のように見えますが、実は(図1)と(図2)の両方がふくまれているといえます。(図3)の場合、まず(図1)のように、「選択者」は自分の判断で自由に一冊の本を選ぼうとします。その中で、複数の人が同じ本を選んだ場合には、(図2)のようにだれが借りるのかを決めることとなります。これら三つの図をもとに考えると、物事を決めるときには、まずはそれぞれの人が自分で判断することが大切です。そして、それぞれの人の希望が重なったり、意見や判断のちがいが生じた場合には、たがいのことを考えながら折り合いをつけていくことが大切です。

「森山さんは、【文章】の中の難しい言葉とその意味について、次の「ノート①」にまとめています。

【文章】の内容は、あとの問いと関係があります。

ノート①

(難しい言葉)	(言葉の意味)
◇ 選択者	選ぶ人のこと
◇ 選択肢	ア

たがいにゆずり合って解決すること

- 「4年間のまとめ」において、「目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係付けて読むこと」に課題があると指摘していることを踏まえての出題。
- 本設問では、【文章】の中から難しい言葉とその意味について書かれている箇所を抜き出す力を問うている。ノートや文章から

(難しい言葉)	(言葉の意味)
◇ 選択者	選ぶ人のこと
◇ 選択肢	ア

この二つの関係に着目する

- 「選択者」や「選択肢」という言葉が文章のどこにあり、また「選択者」と「選択肢」が対応する言葉、「選ぶ人」と「ア」が対応する言葉になっていると理解することが大切である。
- 説明的文章では、中心となる語が難解である場合、その意味を定義付けていることが多い。中心となる語に着目した上で、その語を含む文全体の意味を的確に理解する必要がある。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」56～58ページ

②文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く

<指導事項・書くこと 5・6年エ> <指導事項・読むこと 5・6年ウ>

B②三 (正答率 43.3%・全国 41.6%)

- ・楽器の分担を決める過程を説明するために、【楽器の分担図】について読み取った内容と、【文章】の中で必要となる内容を合わせて書くことを問う。

【文章】

森山さんのグループでは、音楽の学習でグループごとに合奏(がっしやう)をするようになりました。そこで、森山さんのグループの五人は、それぞれ希望をもとに、担当する楽器を決めることになりました。次の「楽器の分担図」は、「文章」の内容を参考に五人の希望を整理したものです。あとの(問い)に答えましょう。

【楽器の分担図】
(合奏で使う楽器)

小太鼓 (一人)	木琴 (一人)	オルガン (一人)	リコーダー ② (一人)	リコーダー ① (一人)
?	Cさん Dさん Eさん	Bさん	Aさん	?

【文章】の(図2)の場合と同じ

(グループの五人)

(問い) 森山さんのグループでは、「希望者が一人の場合には、その人がその楽器に決まる」ということを確認しています。グループの五人は、楽器の分担をどのように決めていくことになりましたか。

【楽器の分担図】をもとにし、次の条件に合わせて説明しましょう。

(条件)

- 「リコーダー①」「小太鼓」「木琴」という三つの言葉を使って書くこと。
- 「木琴」の決め方については、「文章」の□の中で説明している、決めるときに大切なことを取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、八十文字以上、百字以内で書くこと。なお、「しかし」から始まる書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※●の印から書きましょう。どちらの行で書きかえたいかをあらかじめ決めて書きましょう。

100字 80字

さん Aさんは希望どおりのオルガンのリコーダー②に、Bさんも希望どおりのオルガンに決まります。しかし、CさんとDさんとEさんは、

- ・(問い)の(条件)の二つ目の○から正答の条件として「折り合いをつけて決めていくこと」(=「ゆずり合って解決すること」)という内容を取り上げていることが重要になる。
- ・ゆえに正答として次の条件が必要になる。
 - ① 「リコーダー①」「小太鼓」「木琴」という三つの言葉を使っている。
 - ② 【文章】の中で説明している、決めるときに大切なこととして、「折り合いをつけて決めていく」、または「ゆずり合って解決する」という内容を取り上げている。
 - ③ 書き出しの言葉に続けて、80字以上100字以内で書いている。
- (正答例) 一人しか希望どおりにいきません。木琴から外れた二人は、リコーダー①か、小太鼓をたん当します。三人がなっ得するように折り合いをつけて決めていく必要があります。
- ・主な誤答は、条件②を満たしていないもの(31.0%)、つまり【文章】の中の必要な情報を、文中に入れていないものである。

(誤答例) 三人とも木琴を選び、希望が重なっています。だから、一人はリコーダー①を、もう一人は小太鼓をたん当するように決めていくことになります

…「折り合いをつけて決めていく」という内容を取り上げて書いていない。
- ・説明的な文章では、図やグラフなどを用いる場合があるため、それらと関係付けて自分の考えをまとめることは重要である。図やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらと関係付けて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うこと、文章と図やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができるように指導すること、その上で説明的な文章を書く際に図やグラフなどを効果的に用いることができるように指導すること、等が考えられる。

③登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える。〈指導事項・読むこと3・4年ウ〉

B3-1 (正答率 62.4%・全国 60.4%)

〈絵4〉

〈絵3〉

〈絵2〉

〈絵1〉

3 六年生の山田さんの学級では、「一休さんとんち話」という本を読んで、紙しばいを作り、一年生に読み聞かせをすることにしました。そこで、山田さんのグループでは、その本の中から次の「びょうぶののとらのお話」を選び、場面の様子を「四枚の絵」に分けてかきました。あとの問いに答えましょう。

【四枚の絵】

〇の中の1から5までは、まどまりを表しています。

1 一休さんは、それを解くと書いてありました。

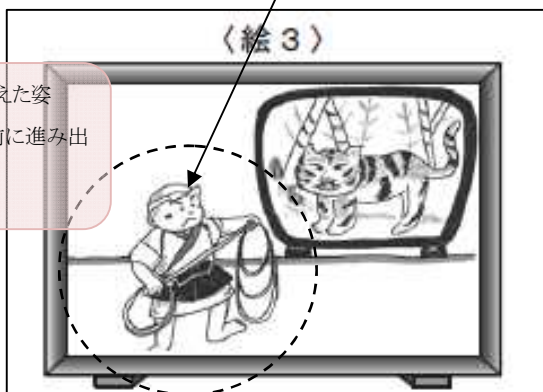
2 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え

3 一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え

4 一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。出て来い。勝負だ。」

5 「何を言うか、一休。絵のとらが、追い出せると思うか。」

- 物語を音読する場合、場面の移り変わりに注意し、登場人物の行動や気持ちの変化について想像しながら読むことが重要。本問では、とんち話の中から「びょうぶのとらのお話」を取り上げ、紙芝居にして音読する場面を設定している。
- 本問では、登場人物の行動に着目して読むことが求められる。登場人物の行動が変化したことが分かる言葉や文を見付けながら読むことが必要となる。また、【話し合いの様子①】の高木さんの発言も参考になる。



身じたくを整えた姿
びょうぶの前に進み出
ている

「山田さんのグループの三人は、だがが、どの場面を読むのかについて話し合っています。次の【話し合いの様子①】をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【話し合いの様子①】

山田さん 「びょうぶのとらのお話」の内容と【四枚の絵】とを関係付けながら考えよう。

川さん 「(絵1)についての話し合い(省略)」

小川さん 「びょうぶのとらのお話」の中の〇の部分(絵2)と(絵3)に分けてかいたよ。 (絵3)の始まりをどこにしたのか確認してみよう。

高木さん 「(絵2)は「一休さんとのおさま、家来とがやりとりをしている場面」、(絵3)は「(絵2)を追い出そうと動き始めた場面」にしたよ。

〇 (話し合いが続く)

(問い) (絵3)の場面は、「びょうぶのとらのお話」の〇の中の1から5までのどこから始まりますか。最も適切なもの一つを選んで、その番号を書きましょう。

④登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する。

＜指導事項・書くこと 5・6年ウ＞ ＜指導事項・読むこと 3・4年ア＞

B3 (正答率 69.5%・全国 66.6% ※無解答率 12.0%・全国 15.1%)

- ・とのさまの会話の音読の工夫について、具体的に示して書くこと、また、そのように読む理由として、とのさまの気持ちについて想像したことを取り上げて書く必要がある。
- ・とのさまの気持ちとしては、やり込められたことに対する悔しさ、または一休さんの見事などんちに対する感心などの気持ちが考えられる。そのような気持ちを表す声の出し方として、様々な工夫が考えられる。
- ・正答は次の条件を満たしているもの

- ① 声に出して読むときに工夫することを書いている。
- ②とのさまの気持ちについて想像したことを理由として取り上げている。

③40字以上80字以内で書いている。

(正答例1) わたしは、小さい声で読みます。とのさまは一休さんをこまらせようと考えていたのに、逆に一休さんにやりこめられてしまい、落ちこんで元気をなくしたと思うからです。

(正答例2) とのさまは、無理なことをとんちで解決した一休さんをほめてあげたかったと思います。だから、少し高い声で調子よく読みます。

- ・主な誤答は、条件②を満たしていないもの (8.7%)、つまり、とのさまの気持ちを理由として記述していないものである。

(誤答例1) 大きな低い声で、ゆっくり読みます。理由は、とのさまの声は低くて大きな声だと思うからです。

(誤答例2) びょうぶのたらのお話のおもしろさについて一年生に伝えるのなら、声を大きくしてゆっくり読みます。なぜなら、一年生はまだ小さいので聞き取れないと思うからです。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」66～72ページ

二 山田さんたちは、「びょうぶのたらのお話」のおもしろさについて、一年生にどのように伝えたらよいか話し合っています。次の「話し合いの様子②」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【話し合いの様子②】

(問い) 「もうよい。わしの負けじゃ。」を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 声に出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。
- なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとのさまの気持ちを取り上げること。

四十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。

田 一休さんが来たときに、「どらを追いついてください。出て来ないといはれませぬからね。」と言ったところがおもしろいね。

山 私もそう思うわ。とのさまが言った無理なことに対して、一休さんがちえを働かせているところよね。とのさまはおこつて言い返したけれど、一休さんに「それはおかしい。」と言われて、「ううむ。」とうなってしまふね。

小 最後に、とのさまは、「もうよい。わしの負けじゃ。」と言ったけれど、どんな気持ちだったのかな。どんなふうにも読む方を考えてみよう。

高 (話し合いが続く)

※「国語B」と児童質問紙から考えられること。

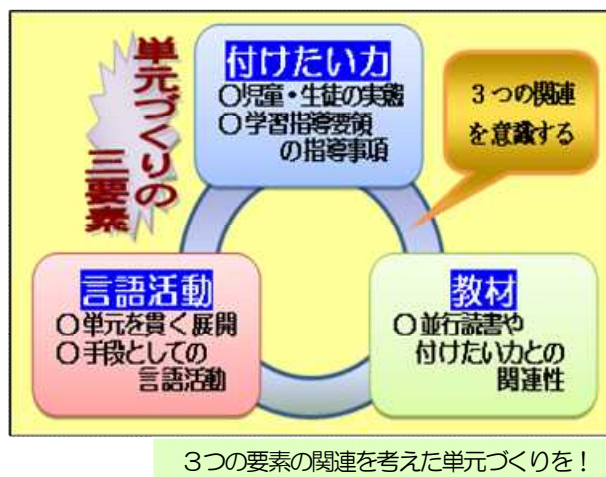
質問と肯定的な回答の割合	H25	H26	H27
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	57.7%	59.5%	64.1%
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	54.3%	56.2%	58.5%
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	67.8%	70.2%	71.9%
全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	71.6%	77.3%	79.8%

児童質問紙から、小学校国語の授業改善に対する指導者の意識は着実に高まっていると判断できる。しかしながら、B問題の記述式の設問については、正答率が70%を超えていない。今後とも、記述した文章の中に必要な情報が入っているのかを、丁寧に指導することが必要である。また、必要な情報は文章中のどこにあるのかを素早く見付ける力を付けることも必要であり、そのため、ある程度の字数のまとまった文章を、目的をもって読ませる指導が必要と言える。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付けたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付けたい力を付けていく教科である。そのため、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。今後とも、単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- ・単元を構想する際、付けたい力とそれにふさわしい言語活動、教材はどのようなものかを適切に判断することが求められる。そのために、次の2点については年度の始まるまでに行っておく必要がある。



①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること

※フォーマットは県教育委員会のホームページにもある。

②学習指導要領の言語活動例の確認すること

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参考にすることも非常に有効である。

授業改善のために全国調査の問題やアイデア例を利活用を！

「授業アイデア例」は、全国調査の結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、作成されている。平成21年度から、学校に配布しているもので、国立教育政策研究所ホームページからもダウンロードできる。



(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」の指導改善のポイントに

書くこと

○目的や意図に応じ、取材した複数の内容を整理して記事を書く 指導の充実

- ・取材した内容を新聞記事として書く際、事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように、取材した複数の内容を整理して書く必要がある。（後略）

読むこと

○目的に応じて、適切に引用する指導の充実

- ・「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることであり、実生活で生きて働く国語の能力として、目的に応じて適切に引用することができるようになることは極めて大切である。（後略）

○文章と図やグラフなどを関係付けて、自分の考えをまとめる指導の充実

- ・児童が文章と図やグラフなどを関係付けて、自分の考えをまとめるためには、図やグラフなどを読み取るとともに、文章と図やグラフなどを関係付けて読むことについて指導することが必要である。具体的には、図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらを関係付けて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うことが考えられる。（後略）

「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」9ページより

とある。このことから、授業における多様な図書資料を利活用する必要があることが分かる。

- ・必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が必要である。そのためには、多様な図書資料等を用い、目的に応じた読み方を身につけさせる活動の充実を図ることが求められる。
- ・学習指導要領の言語活動例を参考にして、情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活

動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場を単元の中に効果的に位置付けることも有効である。

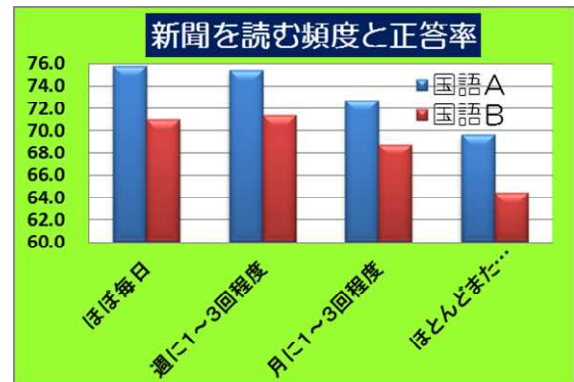
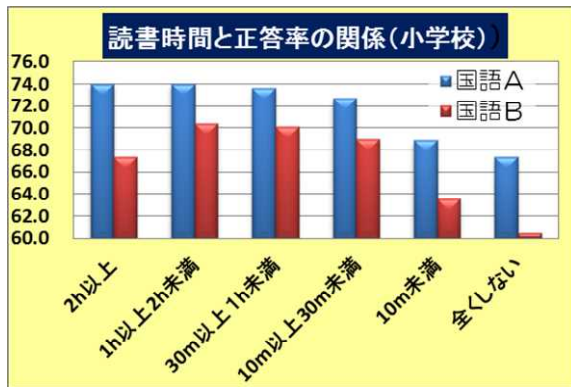
例 ○書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。

○一つの文章を、様々に目的を変えたり、字数を変えたりして要約する。

- ・「漢字の読み」や語彙量に課題が見られる児童、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。本県の小学5年生における不読者は、昨年度から微減したものの依然として高い水準である。一斉読書や教科の授業中に図書館の利活用を推進する中で、様々な種類や内容の書籍に触れさせる指導も必要である。
- ・また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが大切で、新聞等のメディアも有効な教材と言える。
- ・本調査のクロス集計を見ると読書時間及び新聞を読む頻度と教科の力にある程度の関係性が見られる。

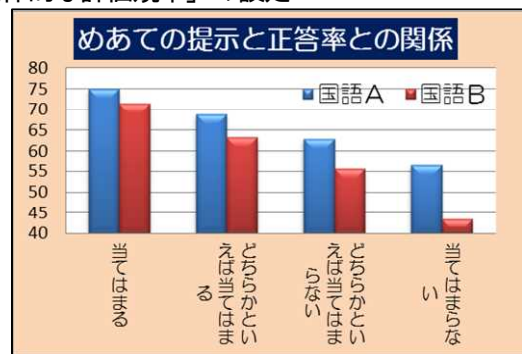


ある。



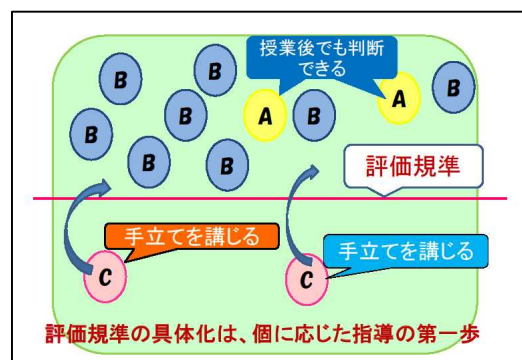
(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ・授業のはじめに目標（めあてやねらい）を示すことは、有効である。「5年生までに受けた授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」についての回答と正答率との関係は右のグラフに示すとおりである。
- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。
- ・この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。



(4) 国語科授業で取り組むべきこと

- ①主にA問題に課題がある場合に求められる工夫
 - ・記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する。記述の指導は、「書くこと」の指導だけでない



く、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。

例（話す聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿

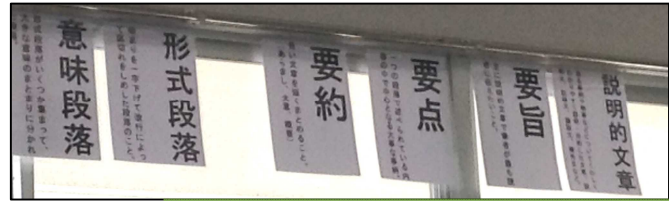
（書くこと）手紙、礼状、依頼状、記録、報告、紹介、説明、詩、短歌、俳句、物語、随筆

（読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見）を明確に書くこと。

目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・学習用語の確実な定着を重視すること

教科書の巻頭・巻末等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導することが大切で、一度学習した用語は授業で使う。指導者があいまいな言葉を使わないことが大切である。



既習の学習用語・漢字等を掲示し、授業中の発表等の中で使用を促すことも有効である。

②主にB問題に課題がある場合に求められる工夫

- ・条件に即応して記述しなければならない場面を設定する。

時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用

彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。

特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。国語科だけでなく、各教科のノートや学級日誌等、様々な場面での指導が望まれる。

- ・全校一斉読書や各教科及び領域における学校図書館の利活用。

様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（【例】各新聞社から配信されるワークシートを短時間で行う）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。

新聞社作成のNIEワークシート（写真は大分合同新聞社のもの）

多くの新聞社（中央紙、地方紙とも）が新聞記事を使った様々なワークシートを作成している。また、それらを手入手する方法も様々である（サイトからダウンロードする、登録して配信サービスを受ける、販売店から届けてもらう）。無料のものも多いので、利活用しやすい。内容も様々であるので、発達段階に沿って利用もできる。言語活動の練習教材として、また読書活動の教材として活用ができると考えられる。